

## 【資料4-2】

角田市第6次長期総合計画 基本構想

第2章 角田市を取り巻く環境

第3節 人口の将来展望（人口ビジョン） **掲載案**

※「【資料4】角田市人口ビジョン」要約版

### 第3節 人口の将来展望（人口ビジョン）

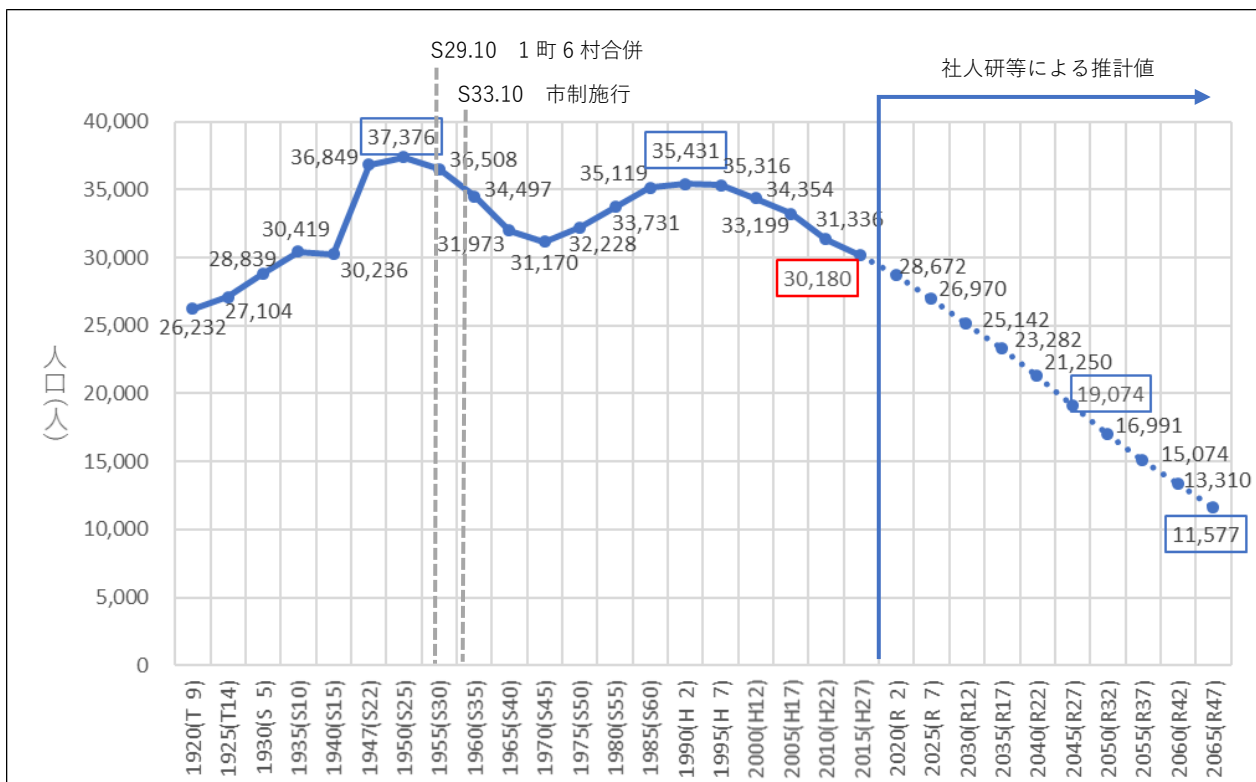
#### ● 総人口の推移と将来推計

本市の総人口は、昭和 10(1935)年に 3 万人を突破(注)し戦後にかけて増加しましたが、都市部への労働力人口の流出を主因として、昭和 25(1950)年の 37,376 人をピークに減少に転じました。その後、昭和 50(1975)年以降は増加傾向で推移しましたが、平成 7(1995)年以降は少子高齢化の進展により減少傾向が続いています。平成 27(2015)年の人口は 30,180 人となり、直近ピークの平成 2(1990)年(35,431 人)と比較すると 85.2%の水準にまで減少しています。

一方、国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)および社人研の推計方法に準拠した「まち・ひと・しごと創生本部」の推計によれば、本市の総人口は、令和 2(2020)年以降も減少傾向が継続し、30 年後の令和 27(2045)年には 19,074 人(平成 27(2015)年比 63.2%)と 2 万人を割り込み、50 年後の令和 47(2065)年には 11,577 人(同 38.4%)にまで減少するものと推計されています。

(注)本市は、昭和 29(1954)年 10 月に角田町、枝野村、藤尾村、東根村、桜村、北郷村、西根村の 1 町 6 村が合併し誕生した新角田町が前身であるため、合併以前の人口は旧 1 町 6 村の合計値としている。

【図表 1 角田市総人口の推移】



注:大正 9(1920)年から昭和 25(1950)年までは、昭和 29(1954)年の合併前の町村である、角田町、枝野村、藤尾村、東根村、桜村、北郷村、西根村の合算値

出所:2015 年までは「国勢調査」(総務省)

2020~2045 年は「日本の地域別将来推計人口(平成 30(2018)年推計)」(社人研)

2050 年以降はまち・ひと・しごと創生本部による推計値

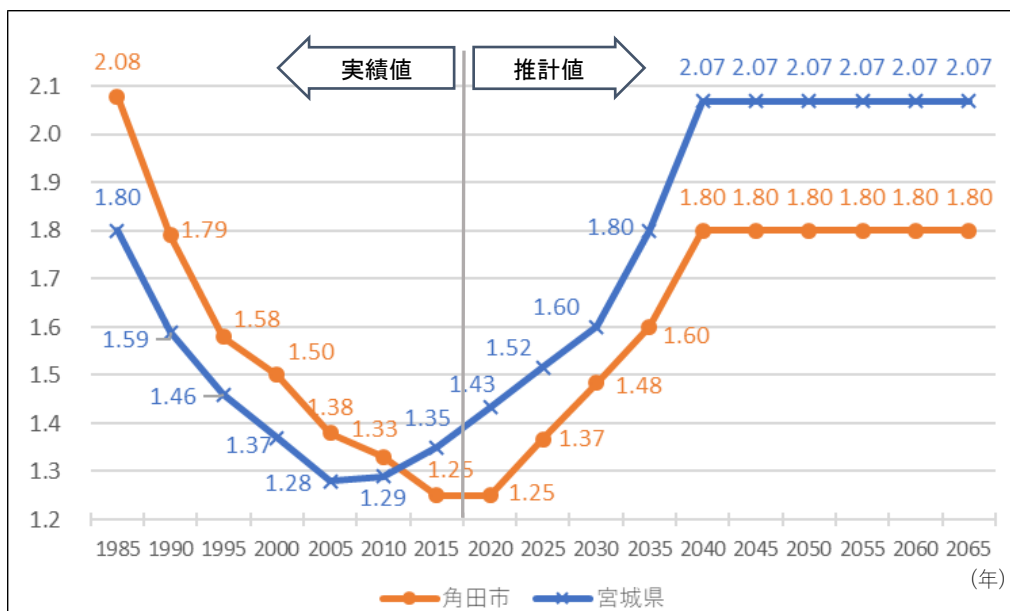
● 目指すべき将来人口

・ 目指すべき合計特殊出生率

本市の合計特殊出生率が宮城県よりも低位な現状を踏まえると、宮城県の人口ビジョンの目標値である人口置換水準 2.07 を目指すことは困難であることから、図表 2 のとおり、本市では宮城県の人口ビジョンの目標値に遅行するかたちで上昇させながら、国民希望出生率である 1.80 を目標といたします。

この目標値を達成するためには、徐々に合計特殊出生率を引き上げていく必要がありますが、本市では、持続的な人口増加に向け結婚・出産・子育て支援や仕事と子育ての両立などの取組みにより、合計特殊出生率の上昇を目指します。

【図表 2 角田市の目標合計特殊出生率】



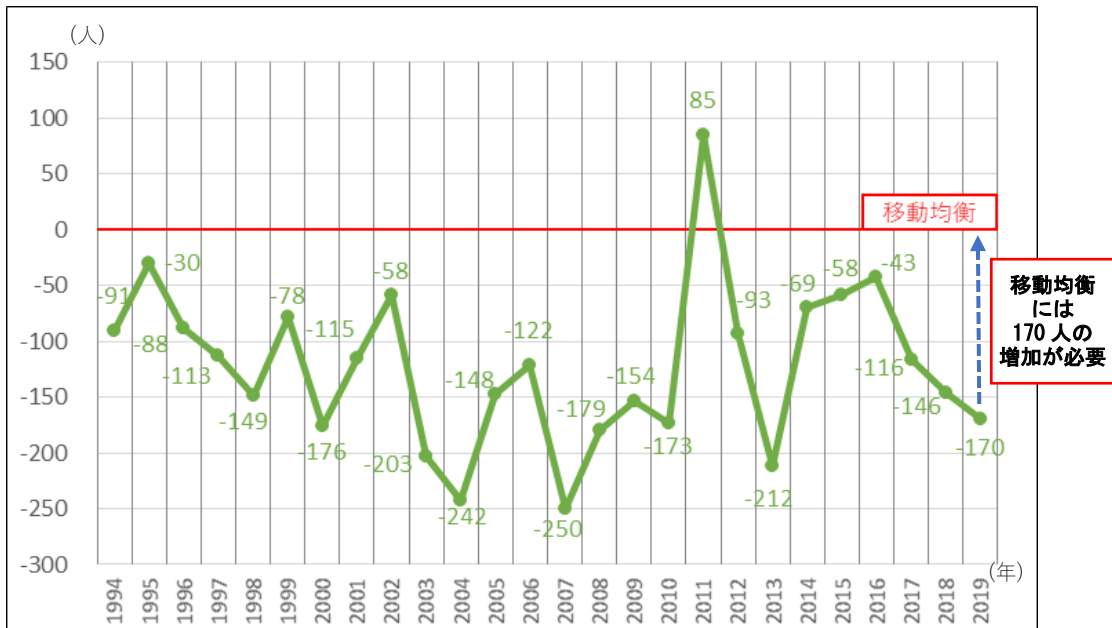
出所：2015年までは「人口動態保健所・市区町村別統計」（厚生労働省）

・ 目指すべき純移動率

図表 3 のとおり、本市の社会増減は若年層が大学進学や就職時に市外へ流出する傾向が強いこと主因として社会減の傾向が拡大しており、本市では宮城県の人口ビジョンの目標である移動均衡（純移動率ゼロ）を目指すことは極めて困難な状況となっています。

しかしながら、本市においても、既存産業の振興と質の高い雇用の創出などにより、新卒者の流出抑制と大学卒業者の市内企業への就職促進を図るとともに、地域資源をフルに活用した交流の活性化により関係人口を増加させ、U I J ターンを促進する取組みなどの政策努力により人口流出の抑制を目指すことから、マイナスの純移動率となっている社人研推計値の 0.5 倍を目標値といたします。

【図表3 角田市純移動者数推移】



出所：「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」(総務省)

・ 将来推計人口の目標値

上記の目指すべき合計特殊出生率および純移動率に基づき推計した、図表4を本市の目指すべき将来推計人口の目標値とし、令和47(2065)年時点で社人研推計値よりも3,000人程度多い人口1万5千人の確保を目指します。

【図表4 角田市の将来推計人口目標】

